

# 大分市立金池小学校 学力向上プラン

平成28年度 (I)

## I 学力調査の結果

### 【平成28年度 大分県学力定着状況調査】

○国語に関して	○算数に関して	○理科に関して
・全ての領域観点で、平均正答率が目標値及び県平均を上回っている。	・全ての観点で平均正答率が目標値及び県平均を上回ったが、領域では「量」が目標値及び県平均を上回っている。	・全ての領域観点で、平均正答率及び県平均を上回っている。
・「読むこと」「読む能力」においては県平均を10ポイント近く上回っており、読み取る力の高さが見られた。	と測定で目標値を、「数量関係」で県平均を下回った。	問題別では「物の体積と力」など正答率が高い問題がある一方で、「物のあたたまり方」に弱さが見られ、目標値や県平均を下回つていても、「計算のふく習」「角の大さ」「折れ線グラフと表」で県平均を比べてやや弱さが見られた。
・問題別では「言葉の学習」や「作文」の理解にやや弱さが見られた。		

## II 指導改善のポイント

①「書く活動」を重視することによる思考力・表現力のアップ	①総合的な学習の時間や「金池っ子ふれあい活動」を通して豊かな体験的活動をさせる。
②指導方法工夫改善教員を活用した少人数・補充指導	②家庭や地域との協働を通して「早寝・早起き・朝ごはん」や「あいさつ」、「読書」の習慣化を図る。
③子どもが学び合いながら主体的に課題解決に取り組むための教師の授業力向上	

## III めざす子ども像

- 単元末テストで60点未満の下位層を10%以下にする。
- 児童対象のアンケートで、「授業中、自分の考えをすすんで表現できる」児童の割合を90%以上にする。
- 家庭との協働により、家庭学習の実施率(提出率)を100%にする。

## IV 具体的な取り組み

【学校の取組】
○ 課題解決学習における学び合いの場の保障(子どもが学び合う授業づくり) <ul style="list-style-type: none"><li>・書く活動、ノート指導の重視 → 確かな根拠 → 意見発表 → 練り合い → 考えの深化</li><li>*教師が教え込む授業ではなく、子ども自らが授業を創造していくという授業展開をねらう。</li></ul>
○ 教職員の授業力向上 <ul style="list-style-type: none"><li>・各学年で単元毎に教材研究をし、指導計画を練ることを通して、質の高い授業の創造を目指す。</li><li>・各学年部を中心として学期に1回互見授業を実施し、助言し合う。</li></ul> <p>&lt;ポイント&gt;・・・「素材の工夫」「課題設定」「深め課題の成立」「板書の工夫」「書く活動やノート指導」</p> <p>・大分市教育委員会指導主事を招聘し、指導助言をいただく。</p>
○ 基礎基本の定着 <ul style="list-style-type: none"><li>・金池タイムの計画的実施・・・算数・国語の基礎問題を中心とした反復練習(フォローアップシートの活用)</li><li>・モジュール学習の実施・・・水曜日1校時に全クラス実施</li><li>・単元末の習熟指導・・・少人数指導によるきめ細かな指導と、低位層児童の学習理解を図る補充指導</li></ul>
○ 小中一貫教育の推進 <ul style="list-style-type: none"><li>・合同研修会を中心として連携を密にし、9年間を見通した教育に取り組む。</li></ul>
○ 豊かな読書活動の推進 <ul style="list-style-type: none"><li>・目標貸し出し冊数年間8万冊とし、図書館支援員と連携して実現にむけて取り組む。</li><li>・読書に親しみやすい図書館環境づくりや、読み聞かせボランティアによる読み聞かせを実施し、意欲を高める。</li></ul>
【家庭・地域との協働】
○ あいさつ運動を家庭・地域と協働で継続して実施しているが、児童の実態に満足できるレベルまでの成長が見られないことから、引き続き重点的な取組として実施していく。
○ 「家庭学習の手引き」を活用して家庭学習習慣の確立を図り、学習内容の一層の定着をめざす。
○ PTA懇談会等の場を有効活用し、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣の定着を図る。
○ 地域ボランティア講師による「金池っ子ふれあい活動」を実施し、豊かな体験活動の場を創りだす。
*放課後体験活動4回、休業日体験活動1回の計5回実施を目指す。